



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 平成29年度 高等学校教職員研修〔全日制Ⅲ〕

日時：平成29年12月5日（火）  
対象：高知商業高等学校 全日制教職員

目的

高知市立高等学校教育の現状と課題への理解を深めるとともに、高知市立高等学校の教職員としての自覚を高め、資質・指導力の向上を図る。

### 「カリキュラムマネジメント」

講師：岐阜大学教職大学院 田村 知子 准教授

★キーワードは「つながり」 教科等や人とのつながりを話し合う過程を大切に！



<撮影・山口一樹>

※注 田村准教授は、カリキュラムとマネジメントをつなげて対応させることを表記上も重視しているため、あえて「・」を付けず「カリキュラムマネジメント」の表記を使用しています。

#### 1 定義

##### カリキュラムとは

教育計画だけを指すのではなく、実施された内容及びその成果までを含んでいる。

「隠れたカリキュラム (hidden curriculum)」, つまり教えていないことを子どもが学んでいる, いつの間にか身に付けられている態度や力を意識する。

##### マネジメントとは

目標を設定し、適切な手段を選択・実施して、その目標を達成していく「プロセス」を意味している。

##### カリキュラムマネジメントとは

各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営みである。



ポイント

- 「子どもの成長課題」を明らかにすることから始める！
- 評価から始めるマネジメントサイクルで課題の共有化を図る！

#### 2 カリキュラムマネジメントの必要性

- (1) 生徒の課題は何か  
そこから教育目標が決まり、授業の取組に工夫が出てくる
- (2) 学校目標と学級目標は連動しているか
- (3) 生徒も教育目標を語れるか

教職員が夏期休業中に、学校の広告を作成

<内容>

- ① 行事
- ② 教育活動（行事を除く）
- ③ 職員集団の特色
- ④ キャッチフレーズ
- ⑤ 写真, 絵



#### 3 「逆向き設計」論

G. ウィギンズ&J. マクタイ提唱

バックワード  
デザイン



- ① 目標（この単元で目指す理解）設定
- ② 評価規準や評価方法の決定
- ③ 学習経験（何をどのように学ばせるか）の組織

#### 4 カリキュラムマネジメントの基本的な方法

- (1) 学校課題と教育目標を明らかにして共有化を図る
- (2) 評価を核としたマネジメントサイクルをつくる
- (3) 教育内容・方法上の「連関性」を確保する
- (4) (1)や(3)の手法として、カリキュラムに関わる各種文書の工夫
- (5) 組織運営上（学校内及び学校外）の「協働性（協働体制と協働的な組織文化）」をつくる
- (6) カリキュラムの計画段階や評価段階への参画の促進により、関係者の当事者性を高め、主体的な取組にする

改善とともに、継続・発展させることも重要！

「見える化」を図る！作成することが目的にならないように注意！

## 研修Ⅰ〔公開授業〕「整数の性質をしらべよう」

授業者：高知市立神田小学校 戸田 正倫 教諭

## タブレット端末で、試行錯誤しながら課題を解決する授業

扉は開きます。○が五つそろえば、扉は開きます。

た。20を入れるると×だった。18ならどうか？

ろ。○は、どんな数だろう。

○は、全部同じ数で割り切れます。例えば…

電子黒板に書き込み

1 電子黒板に問題を提示  
「○になる数を入れて、扉を開け！」

2 タブレット端末を用いて、ペアで  
試行錯誤

3 ホワイトボードと電子黒板、どちらも  
交え、考えを発表し課題を解決

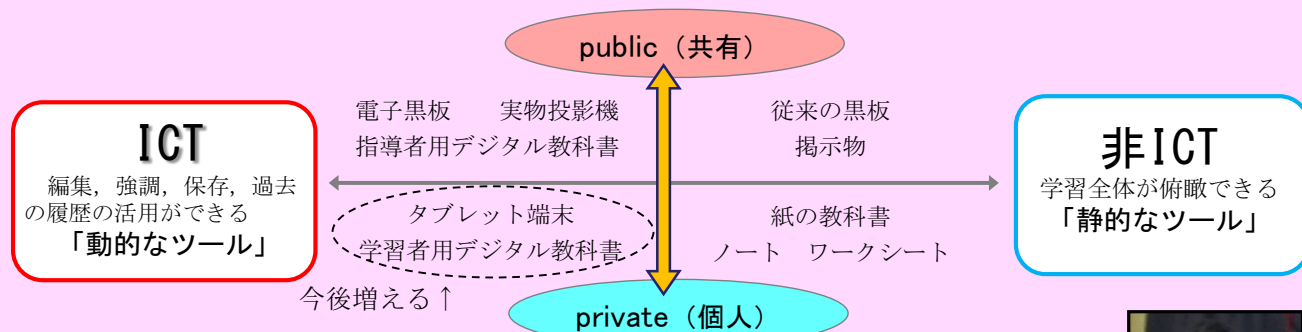
※ 試行錯誤しながら課題解決を図る活動を通して、倍数、約数など整数の性質の感覚を養うことをねらいとしています。タブレット端末を活用することで、数字を入力すると、すぐに答え（○と×）が表示され、失敗しても繰り返し考えることができるなど、子どもが考える機会を保障するツールとして用いられました。

## 研修Ⅱ〔講義〕「学習指導要領の改訂とICTを活用した授業づくりについて」

講師：放送大学 中川 一史 教授

## ICT, 非ICT, それぞれの特性を生かした授業づくりを

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、publicとprivateの往復が大切。



## 特性を生かし、ICTを取捨選択する力が求められる

ICTを活用するにあたり、機器についてどの場面で何が有効なのかを見極めたり、時には使わない方法も考えたりする無理のない活用が大切です。



## 【受講者の感想】

- ・ 画像の拡大等、導入に効果的であったり、課題がタブレットに表示され、ワークシートを配付する時間の短縮になったりと、ICTのよさを授業を通じて知ることができた。タブレットが二人に1台あることで、待たせる時間もなく、子どもが次々と意欲的に取り組んでいるのが印象的だった。
- ・ ICT の選択についての話が印象に残った。授業において、黒板に書くことと電子黒板に映すことを効果や意図に応じて変えている。これが自然にできるようになるには、それぞれの利点や特性を把握しておかなければならない。そのために、いつでも使える環境を整えることや何度も使うことで操作技能を習熟することが必要になると思う。
- ・ タブレットが一人1台になると、授業中の機器の操作の主導権は子どもに移っていくことを知った。それに伴い、教師も授業スタイルを再考していかなければならないと感じた。